

「ゴーストカー」

作・渡辺かずのぶ

○登場人物

たなべけんや  
田辺賢也

麻布南署刑事課警部補

いそべたかゆき  
磯部貴之

麻布南署刑事課巡查部長

おとなしあやか  
音無彩香

蓮見女学園の生徒

あさかわなお  
浅川奈央

麻布南署交通課課長

いせぬまとしはる  
伊勢沼敏春

麻布南署交通課鑑識係巡查部長

ふじいしんじ  
藤井慎二

麻布南署交通課課長補佐

すえたけまもる  
末武守

麻布南署管理官

みはらりえこ  
美原理恵子

半身不随の女性

「GHOST CAR」  
ゴーストカー

暗闇の中、ランボルギーニのエンジン音が聞こえてくる。急発進して走り去っていく音。明転すると、田辺賢也と磯部貴之が立っている。

田辺、何かに気づき、舞台前に出てくる。近づいてくる同僚の磯部。

磯部 どうしたんですか、田辺先輩。

田辺 いや、いま何か聞こえなかったか？

磯部 えっ？

田辺 猛スピードで走り去っていく車の音。

磯部 私は何も聞こえませんでしたけど。

田辺 そうか、気のせいか。

磯部 最近、疲れてるんじゃないですか、先輩。しばらくずっと張り込んでたから。

田辺 ああ、そうかもな。

磯部　まあ、先輩の手腕で見事、連続窃盗事件は解決。さすがですよ。

田辺　（苦笑して）何だ？　不満か？

磯部　いや、ちよつと嫉妬してるんですよ。おれは犯人絞り込めなかったから。

田辺　お前もいたから、逮捕できたんだよ。

磯部　えっ、まじっすか。じゃあ、今度、焼き肉でもおごってください。

田辺　ああ、それぐらいなら安いもんだ。

磯部　やったー。

アナウンス　至急至急。東京本部から麻布2丁目、環状3号線TKビル付近において、ひき逃げ事件発生。被害者は中年女性。逃走車は赤のスポーツカー。各班は対応してください。

磯部　先輩！

田辺　磯部、行くぞ！

磯部、田辺、下手に駆け去る。

伊勢沼敏春が上手から入ってくる。

田辺、磯部が下手から入ってくる。

田辺　伊勢沼さん、どうでした？

伊勢沼　被害者は、病院に運ばれましたが、死亡しました。死亡ひき逃げ事件に変更です。

磯部　チッ！

伊勢沼　それが……。

田辺　どうしました？

伊勢沼　おかしいんです。被害者の自転車は、後方から確実に車両に追突された痕跡があるんですが、肝心の車の証拠がない。

磯部　衝突してるんだから、車両の破片くらいあるでしょう？

伊勢沼　それがないんです。証拠は被害者の自転車の部品ばかりで。こんな事故は遭遇したことはありません。

磯部　現場の近くに防犯カメラあったでしょう。写ってないんですか？

伊勢沼 事故現場をとらえているカメラはありません。

田辺 目撃者はたった一人だったよな。

伊勢沼 はい、赤いスポーツカーが女性をはねて、そのまま走り去ったと。

伊勢沼 とりあえず、物証が無いので交通課だけでは対処できません。刑事課も捜査に加えるように、というのが上からのお達しです。

田辺 ……わかった。

磯部 絶対におれが犯人を捕まえてやる。

伊勢沼、去る。

田辺 おかしいと思わないか？

磯部 塗膜片（とまくへん）もみつからないなんて不思議ですよね。

田辺 どっちにしても、車の痕跡がない限り、交通課だけじゃ対処できない。こっちでも調べるしかない。

磯部 念のため、目撃者、もう一回当たりますか？

田辺 ああ。スポーツカーなら、ある程度、車種を特定で

きるかもしれない。

音無彩香が学校の制服姿でやってくる。

音無 刑事さんが私に何の用事ですか？

田辺 すまない、学校帰りに。

音無 私、もう見たことは全部あるとき警察に話しましたけど。

田辺 そうなただけど、もう少しくわしく話を聞く必要が出てきたんだ。

音無 どういうことですか？

磯部 事故現場に有力な物証がないんだ。君が言った赤いスポーツカーは無傷だったことになる。

音無 防犯カメラとかありますよね。

磯部 その防犯カメラにも怪しい車が写ってない。

音無 えっ、それって、もしかして私、疑われています？

磯部 えっ？

音無 私が嘘の目撃情報を話したとか？

田辺 いや、そういうことじゃないんだ。残念ながら被

害者の女性は死亡した。鑑識の調べでも、後方から車に自転車が当てられてる。だから、車に轢かれたのは確かなんだ。

音無 あの人、死んじゃったんですね……。

田辺 ああ、残念ながら、即死だったみたいだ。猛スピードで後方からはねられてる。

磯部 ちょっと写真を見てもらいたんだけど、いいかな。

音無 写真？

磯部 君は赤いスポーツカーが現場から走り去ったと言ってたから、めぼしいスポーツカーの写真を持ってきた。もし似た車があれば教えてほしいんだ。

磯部、スーツの内ポケットから写真を取り出して、音無に見せる。

音無、受け取って、さらさらと写真を見た後、一枚の写真を磯部に突きだす。

音無 これ、私が見た車です。

田辺 (磯部に) 車種は？

磯部 ランボルギーニ。

田辺 (音無に) すごいな、ほんとはよく現場を見てたんだね。

音無 私、記憶力には自信があるんで。

磯部 間違いない？

音無 間違いありません。

田辺 ナンバープレートは見えなかったんだよね？

音無 あっというまの出来事だったので。

磯部 こんな派手なスポーツカーが事故を起こしてたら

目立つはずなんだけどなあ。

田辺 赤のランボルギーニ……。

音無 以上です。あとは何もわかりません。もう帰っていいですか？

田辺 ああ、すまない。忙しいところ協力ありがとう。

音無 それじゃあ。

音無、去る。



磯部 どうします？

田辺 とりあえず赤のランボルギーニだ。交通課に伝えて、防犯カメラ洗い直してもらおう。

浅川奈央がスーツ姿で入ってくる

浅川 あらっ、あなたたちもここにいたの？

田辺 浅川課長、なんでここに？

浅川 田辺さん、これはひき逃げ事件なんですよ。管轄は交通課です。それわかっています？

田辺 もちろんわかっています。ただ物証が一つもないという特異な事件なので。

浅川 上から何言われたか知らないけれども、私たち交通課の捜査員もいるってことを忘れないください。

磯部 課長、じきじきに捜査ですか？

浅川 そうよ、物証もなく、ただ席に座ってるだけじゃ事件が解決しないでしょ。

田辺 ……。

浅川 で、どうなってるの？ あの目撃者に聞き込みした

の？

田辺 ええ、今しがた終わったところです。

浅川 情報開示してちょうだい。

田辺 もちろんです。磯部、説明して差し上げろ。

磯部 課長もご存知のとおり、目撃者は音無彩香さん、1

8歳。蓮見（はすみ）女学園の生徒さんです。

浅川 うん。

磯部 いま、目撃情報をもう一度確認したところ、車種を覚えてました。

浅川 車種を知ってる？

磯部 事件直後の聞き込み捜査で、赤いスポーツカーが猛スピードで走り去ったのを見ているので、私が10数枚の写真をピックアップしてみせたところ、一台ヒットしました。

磯部、胸元のポケットから一枚の写真を取り出して、浅川に手渡す。

浅川 ランボルギーニ……。

磯部 本人は、はっきりと見たようですぐにこの車の写真を  
選びました。

浅川 このランボルギーニがひき逃げ車両だとしても、塗  
膜片（とまくへん）も車両の破片も一切、なし。事  
故の瞬間の防犯カメラもなしじゃ逮捕できないじゃ  
ない。

磯部 あの……鑑識、信用していいんですよね？

浅川 当り前でしょ。あなた疑ってるの？

磯部 いや、事故を起こした車両の痕跡が一切ないなんて  
普通でありえます？

浅川 ……。

田辺 ありえない事件が起きた。だから刑事課も動いてる  
んです。

浅川 交通課の捜査員はいま、他に目撃者がいなかったか  
総出で聞き込みしてるところ。

田辺 何か有力な情報が出てきたら、私たちにも教えてく  
ださい。

浅川 わかったわ。

浅川、去る。

ランボルギーニのエンジン音が聞こえてくる。ブオン、ブオンと発進を待つような音。

タイヤとアスファルトが摩擦でキュルキュルと鳴る音。

田辺 おいつ、なんだ、この音！

磯部 えっ！？

田辺 聞こえるだろ！ 来るぞ！

磯部 先輩、どうしたんですか？

田辺 お前、まさか……。

ランボルギーニが急加速で発進する音が響き

ドンツという衝撃音。

フードをかぶった男性が、舞台中央に転がってくる。

ランボルギーニがそのまま走り去る音。

田辺 (男性に) おいつ！ 大丈夫か！

血まみれの男性は、ピクリとも動かない。

田辺

(男性に)おいつ! おいつ!

磯部

先輩!

田辺

磯部、救急車!

磯部

はい!

磯部、走り去る。

田辺

(男性に)おいつ、おいつ、しつかりしろ!

田辺、周りを急いで見回すが、何も見えず  
視線を男性に戻す。悔しそうにうなだれる

田辺。

暗転。

明転すると、腕組みをした浅川と、神妙な  
面持ちの田辺が立っている。

浅川 田辺警部補。どういふことか説明してちょうだい。

田辺 だから、すべて申し上げた通りです。

浅川 音が聞こえたんでしょ。なのに何で車両を見てないの！

田辺 だから、私にもわからないですよ！

浅川 刑事が近くにいて、ひき逃げ犯を逃したのよ！

田辺 何で見えなかったのか……。

浅川 被害者男性は内臓破裂で即死。また前と同じように証拠が皆無（かいむ）、どうなってるのよ！

田辺 音だけが聞こえた。エンジン音だけが。

浅川 そんなことありえないでしょ！

田辺 音だけが、俺の前を走り去った。

浅川 はあ。あなた頭、大丈夫？

田辺 事実を言ってるんですよ！ 一緒にいた磯部は、衝撃音だけが聞こえて、気が付いたら、血まみれの男性が転がってきたと言ってる。車の音を聞いてない。いや、たぶん聞こえなかった。

浅川 あなた、申し訳ないけど、病院に行ったほうがいい。

田辺 課長、お言葉ですが、人間が一人、死亡したのは  
確実です。私の頭がおかしくなっていたら、男性は  
何をやられて死亡したんですか？

浅川 ……。

田辺 あんな死体は、普通の殺人事件では見たこともあり  
ません。首を絞められたわけでもなく、刺されたわ  
けでもなく、頭を強打されたわけでもない。車で当  
てられてる。

浅川 じゃあ、その車は何でないのよ。

田辺 ……。

伊勢沼が入ってくる。

伊勢沼 事故現場付近の防犯カメラ、あたりました。事故の  
前後で、赤いスポーツカーが通った形跡はありませ  
ん。

浅川 ……。

伊勢沼 ただ、ちよっと気になることが……。

浅川 何？

伊勢沼、一枚の写真を取り出して、

伊勢沼 この写真、見てください。

浅川、伊勢沼から写真を渡されて見る。

浅川 何も写ってないじゃない。

伊勢沼 いや、良く見てください。ここ、白い影みたいな線が何本も入ってると思うんです。

浅川 白い影の線……。

伊勢沼 カメラでは、この白い影が、高速で抜けていくんです。

田辺 見せてほしい。

浅川、田辺に写真を渡す。

田辺 これかあ。確かに白い線が入ってる。

浅川 ちょっと待ってよ。この影が、ひき逃げした車両だ  
って言うの？



伊勢沼  
いえ、そうとは思っていませんが、何か少し気になったのでお見せしようと思いました。

田辺  
前のひき逃げ事件のカメラに、この線入ってませんか？

伊勢沼  
そこなのですが、こちら見てください。

伊勢沼、もう一枚の写真を取り出して、田辺に渡す。

伊勢沼  
最初は気にならなくて、出さなかったんですが、この線、もう一度、防犯カメラを確認したら、一台のカメラだけとらえています。

田辺  
……。

浅川  
排気ガスとかじゃないの？

伊勢沼  
その可能性もあります。

田辺  
ちよつと出ます。

浅川  
どこに行くの？

田辺  
あの高校生です。

田辺、去る。

浅川 伊勢沼巡査部長、あなたはどう思ってるの？

伊勢沼 私には何もわかりません。

磯部が入ってくる。

磯部 あれっ、先輩は？

浅川 前の事故の目撃者の女の子のところに行くって。

磯部 もうバディー組んでるんだから、俺にも一声かけてほしい。

浅川 いま行けば間に合うわよ。

磯部 じゃあ、おれも行ってきました。

浅川 よろしく。

磯部、去る。

伊勢沼 あんな写真をお見せしてすみません。

浅川 いいわ。気になったことは何でも上げて。

伊勢沼 わかりました。

浅川、伊勢沼、去る。

田辺、磯部がやってくる。

ほどなくして、音無が歩いてくる。

音無 また、刑事さん。

田辺 たびたびすまない。

音無 で、今回は何ですか？

田辺 ……。

磯部 先輩、どうしたんですか？

田辺 ちょっとおかしなことを聞いてもいいかな？

音無 おかしなこと？

田辺 この前、同じような事故が起きて、車のエンジン音は聞こえたんだが車が見えなかった。なぜかわからないか？

音無 ……。

田辺 最初の事故のとき、君は車を見てる。なぜ、君には見える？

音無 うーん……。知りたいですか？

田辺 もちろん知りたいたい。

音無 でも話しても信じてもらえないんですよねえ。

田辺 信じてもらえない？

音無 私、子供の頃から、他の人には見えないものがよく見えるんです。あそこに人がいるよ、なんて言っても母には見えないらしくて気味悪がられてました。

田辺 ……。

音無 難しいことじゃありません。私、靈感がめちゃくちゃ強いんです。

田辺 灵感……。

音無 でも刑事さん、音が聞こえただけでも優秀。たぶんほとんどの人には、聞こえないと思いますけど。

磯部 俺には何も聞こえなかった。

音無 (磯部に) 落ち込むことないですよ。それが普通だから。

田辺 あの車の正体、君は知ってるのか？

音無 ……。

田辺 信じれないかもしれないけど、聞かせてくれ。

音無 (笑って) 刑事さん、正直ですね。信じれないかも  
しれないって……。

田辺 すまない。

音無 たぶんですけど、私に見えて、他の人には見えない  
ってことは……。

田辺 うん。

音無 ああ、どうしようかなあ。こういうこと言うと私、  
また変な人って思われちゃう。関わりたくないんで  
すよね、めんどくさいから。

磯部 じらさないで教えてほしい。

音無 じゃあ、言いますね。あの車、たぶん幽霊です。

磯部 幽霊!?

田辺 ……。

音無 うーん、例えて呼ぶならゴーストカー?

磯部 話にならない。先輩行きましょう。

田辺 いや、ちよつと待て。

音無 信じるか、信じないかは個人の自由。私は私が見え  
ることだけを言ってるだけ。信じてもらいたいとか  
そういう感情も皆無。

田辺 どうしてその車は、人を轢いていく？

音無 それは私にはわかりません。

田辺 ……。

音無 じゃあ、もういいですか。やっぱり何だか損した気分。

音無、去る。

田辺 ゴーストカー……。

磯部 先輩、まさかあんな高校生の話、信じるわけじゃありませんよね？

田辺 じゃあ、磯部、お前は見えなかった事故をどうやって解釈するんだ？

磯部 ……。

田辺 加害車両をまともに調べるのは、無理だな。被害者のほうを調べてみるか。

磯部 そっちなら、もう調べてありますよ。

田辺 なんだ、お前。仕事早いじゃないか。

磯部 ずっと思ってたんですよ。先日の事故のとき、僕に

は車は見えませんでした。でも確実に人が一人、轢かれて亡くなった。車が見えなかったのなら、あとは被害者から何かヒントは得れないかって。

田辺　で、どうだった？

磯部　一件目で轢かれたのは、パート勤務の主婦。

田辺　主婦……。

磯部　二人目の被害者の若い男性は工場勤務で一件目の主婦とは面識がありません。ただ、ちよつと気になることが……。

田辺　何だ？

磯部　被害者の家族を調べたんですが、二人とも、家族に警察関係者がいます。

田辺　警察関係者。

磯部　例えば、一件目のパート主婦の息子さんなんですが、白バイ隊員として、働いています。

田辺　白バイ隊員……。

磯部　二件目の工場勤務の男性の兄は、交番勤務の警察官です。

田辺　たまたまなのか。それとも意味があるのか……。

磯部 意味があると考えた場合は、警察への恨みとかになるんでしょか。

田辺 ……。

磯部 他を調べてみます？

田辺 他？

磯部 過去、うちの管内であった事故の記録です。

田辺 赤いランボルギーニが関わっている事故が他にあるかどうかってことか……。

磯部 ええ。

田辺 よしつ、署に戻って調べてみよう。

磯部 でも先輩、おれはゴーストカーは信じませんよ。

田辺 ああ、それでいい。

藤井 慎二がスーツ姿でやってくる。

藤井 お前ら、交通課に何の用だ？

田辺 藤井、過去に管内でランボルギーニが起こした事故がないか、調べたいんだ。どうにかならないか？

藤井 そんなことはもうとっくに調べてる。



田辺　で、結果は？

藤井　お前ら、刑事課だろ。交通事故の件は交通課の捜査員で調べるから、首を突っ込まないでくれ。

田辺　難解な事件なんだよ。お前にもわかるだろ？

藤井　……。

田辺　過去にランボルギーニが起こした事故があるんだな。教えてくれ。

藤井　聞いても何の役にも立たないぞ。

田辺　どうして？

藤井　その車は、7年前に事故を起こして、廃車処分になってるからだ。もう存在しない車なんだよ。

磯部　存在しない車……。

田辺　ナンバーを教えてください。

藤井　何に使うんだ？

田辺　ちょっと気になることがあるんだ。

藤井　お前、廃車処分になった車が、加害車両だとか訳のわからないことを言うつもりじゃないだろうな。

田辺　ああ、何の確証もないが、聞いておきたいんだ。

藤井　何を考えてる？

田辺 どうせ使えない情報なら隠す必要ないだろ。  
藤井 ……ちよつと待て。一応、メモ書きがある。

藤井、内ポケットから手帳を取り出す。

藤井 言うぞ。

田辺 磯部、控えてくれるか？

磯部 わかりました。

藤井 ナンバーは港区ふ、363、9191。

磯部 港区ふ、363、9191。

藤井 まったく。何を考えているのやら。

藤井、去る。

磯部 田辺先輩。ゴーストカーでしょ？

田辺 ……。

磯部 記録上、もう存在しないはずの車が走っていれば、  
それは……。

田辺 彼女が言ってた通り、ゴーストカーってことになる  
かもしれない。

磯部 いや、ありえないですよ。

田辺 俺はランボルギーニのエンジン音を聞いてるんだ  
よ。お前だって被害者は見ただろ。車が見えないの  
に轢かれてる人間がいる。

磯部 で、どうするんですか？

田辺 まずこの車の所有者だった人間を調べよう。何かヒ  
ントがつかめるかもしれない。

田辺、磯部、去る。

末武守がスーツ姿で入ってくる。そのあとか  
ら浅川が来る。

末武 浅川課長、何かありましたか？

浅川 ちよっと、末武管理官にお願いしたい件があり、う  
かがいました。

末武 何ですか？

浅川 例のひき逃げ事件を調べてるんですが、加害者両の

物証がないという前代未聞の事件で、捜査が難航しています。

末武 うん。

浅川 目撃者の情報で、赤いランボルギーニを見たという証言がありまして、今回だけではなく、過去に似たような事故があるかどうか調べましたが、記録にあったのは7年前の事故のみで、その車は、廃車処分になっていきます。

末武 そうですか。で、お願いというのは？

浅川 麻布南署だけではなく、他の管轄地域で赤のランボルギーニが引き起こした事故がないか、調べたいんですが警視庁の情報がないと先に進めません。そこで管理官のお力をお借りしたいんですが。

末武 私に何をしろ、と？

浅川 警視庁にかけあつて、最近で赤いランボルギーニが起こした事故が都内でないか調べてもらいたいんです。

末武 なるほど。

浅川 お願いできますか？

末武 別に構いませんが、目撃情報だけで、警視庁を動かすというのは、なかなか厳しくありませんか？

浅川 と、言いますと？

末武 浅川交通課長、死亡ひき逃げ事件の検挙率、あなたならもちろん知っていますよね。

浅川 はい。

末武 100・8パーセントです。麻布南署は、100%を超える死亡ひき逃げ事件を解決できないんですか？

浅川 ……。

末武 設置している防犯カメラも多数。ドライブレコーダーもある時代です。こんなことで警視庁に助けを求めたら、私の立場がどうなるかわかりますか？

浅川 ……。

末武 もっと捜査を懸命にやって、証拠の一つくらい上げてください。そうじゃないと、たとえ警視庁にランボルギーニの事故の情報をもたらしても、犯人を逮捕できないでしょう。頼むなら、100%検挙できる状態を作ってからにしてください。

浅川 ……。

末武 何か異論は？

浅川 いえ、管理官のおっしゃる通りです。

末武 証拠をつかんでください。そうすれば、もちろん協力はする。

浅川 わかりました。失礼します。

浅川、頭を下げて、去る。

末武 私が赴任早々、奇怪な事件だ……。

末武、去る。

田辺、磯部、入ってくる。

田辺 磯部、何かわかったか？

磯部 ええ、あのナンバーの所有者は、高瀬智彦という男性で当時25歳。IT関連のベンチャー企業の社長でした。7年前の事故で亡くなっています。

田辺 その事故でランボルギーニは廃車処分になってるわ

けか。

磯部　そうです。

田辺　他には？

磯部　ランボルギーニですが、他に同乗者がいました。美原理恵子、当時22歳。この事故で重傷を負って半身不随になっています。

田辺　半身不随……。

磯部　どうします？

田辺　何が？

磯部　ゴーストカーなんて本気で調べるんですか？

田辺　……。

磯部　7年前の事故の車両が今回と関係があるかどうかだつてまったくわからないじゃないですか。

田辺　磯部、刑事っていうのはなあ、無駄足の連続なんだよ。ああかもしれない、こうかもしれないと足を使つて調べても、何の役にも立たなかった。そんなこといくらでもある。でも事件を解決するにはその無駄足を使つて、絞り込んでいくしかないんだよ。お前もわかつてるはずだ。

磯部 今回ほど、何やってるんだろかなあ、と思う無駄足はありません。

田辺 じゃあ、あきらめるのか。

磯部 あきらめませんが、相手が幽霊だなんて、信じろってほうが無理です。

田辺 嫌ならこの件から下りてもいい。他の可能性を探せ。でもおれには思い浮かばない。

田辺、去ろうとする。

磯部 どこ行くんですか？

田辺 半身不随になった女性のところだよ。

磯部 その半身不随になった女性が、いま、どこに住んでるかも調べました。

田辺 ……。

磯部 一緒に行きますよ。

田辺 じゃあ、頼む。

田辺、磯部、去る。



美原理恵子が車椅子に乗って、やってくる。

田辺、磯部が現れる。

田辺 麻布南署の田辺と言います。隣は磯部です。

美原 お会いしたくないと伝えたはずですが。

田辺 申し訳ありません。ただちよつと気がかりな事件が発生して、お話を聞きしたいと思いましたが。

美原 迷惑です。何も話しすることはありません。

磯部 7年前の事故のことを調べてます。ご協力いただけませんか？

美原 何を言っても無駄じゃないですか。

磯部 無駄とは？

美原 真実はねじまげられて、そちらの都合のいいようにされるだけじゃないですか。

田辺 と言いますと？

美原 7年前の事故、私はすべて見たことを警察にお伝えしました。しかし、それはないと相手側に証言されて、警察もその証言に沿って、捜査を進め、真実

は消えていきました。私が見たことをすべて嘘にしたのはそちらじゃないですか？

磯部 あなたが見た事故はどのようなものだったか、もう一度聞かせていただけませんか。

美原 もう何度も説明しましたが。

磯部 あなたの証言ですが、なぜか供述調書に記載されていません。

美原 ……。

田辺 私たちは交通課ではなく刑事課です。7年前の事故の件は二人とも捜査に加わっていないので、もう一度、くわしく聞きたいんです。

美原 あの、何か起こってるんですか？

磯部 ええ、ちよつと事件が発生しています、7年前の事故が関係している可能性があるんです。

美原 どんな事件ですか？

田辺 捜査中で今はまだ話せません。

美原 ……。

田辺 こちらから話しましょう。私たちが調べてわかって  
いる事故の詳細は、7年前の11月2日午前0時

30分頃、美原さんが同乗していた車は、交差点で赤信号を無視して直進。青信号で右から直進してきたワンボックスカーと衝突してランボルギーニはガードレールに激突。運転手だった高瀬智彦さんは死亡。助手席に乗っていたあなたは重症を負って、病院に搬送。こういった内容です。

美原

何度も違うと言って来た事故の内容です。

田辺

どこが違うのか教えてください。

美原

まず、彼の運転していた車は、赤信号を無視していません。交差点で停止していて、青信号になってから直進ではなく左折しました。その瞬間、猛スピードで後方から走ってきた車に衝突され、私たちの乗っていた車はその勢いでガードレールに激突しました。被害を受けたのは私たちなんです。

田辺

その話を聞く限りだと過失は逆になりますね。

磯部

後方から衝突したワンボックスカーが、過失10割。

美原

そうです。

田辺

ドライブレコーダー、ランボルギーニに付いていた

と思うんですが、何と言われました？

美原  
事故の衝撃で、ドライブレコーダーが壊れ、記録が  
取れないと説明されました。

磯部  
ドライブレコーダーの破損……。  
美原  
もう一回、ちゃんと事故を調べてください。私が願  
うのはそのことだけです。

美原、去る。

田辺  
交通課はこの証言、踏みつぶしたのか？

磯部  
彼女の話が本当なら、何か裏がありそうですね。

田辺  
7年前か……。

磯部  
ここに来たのが無駄足かどうか調べますか。

田辺  
そうだな。

田辺、磯部、去る。

藤井がやってくる。

そのあとから、伊勢沼が来る。

藤井 伊勢沼、こんな屋上に呼び出して何だ？

伊勢沼 藤井、大丈夫だろうか？

藤井 何が？

伊勢沼 田辺警部補と磯部巡査部長、7年前の事故を必死に調べてる。事故の捜査資料も、すべて持っていかれた。

藤井 過去にランボルギーニが起こした事故はないか、おれにも聞いてきた。ないとは言えないからな、あるとは伝えた。

伊勢沼 でもあの事故は……。

藤井 もう7年も経ってるし、捜査資料は完璧なものだ。専門じゃなければ調べても何もわからないはずだ。

伊勢沼 どうしてあの事故を調べる必要が……。

藤井 今回の奇妙なひき逃げ事件のせいだろ。手がかりが何もないから、手当たり次第、調べてるんだろ。

伊勢沼 今回の事件と関係があるわけじゃないじゃないですか。あの事故車両のランボルギーニは、廃車になってるわけですから。

藤井 おれも田辺がどうして7年前の事故を調べる必要が

あるのか訳がわからない。

伊勢沼 いやなことを思い出させる事件だ。

藤井 そうだな。

伊勢沼 田辺さんは、正直、怖い。

藤井 怖い？

伊勢沼 幾多の難事件を解決してきた刑事だ。ほころびがあれば見つけ出してくる。

藤井 でもあいつが探しているのは、過去の事故のことはなくて今回のひき逃げ事件のことだ。何か言ってきたら知らない、で通せ。

伊勢沼 ああ、そのつもりだ。

藤井 判決も出てる事故だ。終わったことなんだよ、あれは。

藤井、伊勢沼の肩を叩いて去る。

伊勢沼、藤井の去る背中を見届けてから去る。

浅川がやってくる。

田辺、磯部が入ってくる。

田辺 お呼びですか。浅川課長。

浅川 ねえ、捜査員から聞いたんだけど、あなたたち7年前の事故、調べてるみたいね。そんなこととしてどうするの？

田辺 ちょっと気がかりなことがあって、それで調べてます。

浅川 気がかりなこと？

田辺 7年前の事故、加害車両は赤のランボルギーニです。

浅川 私も資料見たけど。廃車処分になってるでしょ？  
なってます。

浅川 じゃあ、どうして調べてるの？

田辺 ……。

浅川 調べるのはいいけど、どうして調べてるのか教えて  
ちょうだい。

磯部 今回、連続しているひき逃げ事件で、車を唯一、目撃しているのは、一人の女子高生だけです。その彼女が言うには……。

浅川 彼女が言うには、何？

磯部 赤のランボルギーニは、幽霊車両だと……。

浅川 幽霊車両？

磯部 ゴーストカーだと言っています。

浅川 ゴーストカー？

磯部 ……。

浅川 あのね、そんな証言を信じて、捜査を進めてどうするの？ 私たちが追っているのは幽霊なの？

田辺 もちろん、すべて信じているわけではありません。

ただ人を轢いているのに、膜もなければ、破損部品もありません。私にはエンジン音しか聞こえなかった。そこで何か過去の事故と関わりがないかどうか調べてるんです。

浅川 あなた、正気？

田辺 正気のもりですが。

浅川 確かに、不可解すぎる事件よ。でもねえ、相手がゴーストカーなんて話を誰が信じるの？

田辺 信じられないから調べてるんです。でも課長、もし7年前に廃車になった車のナンバープレートと今回の事件を起こしている車のナンバープレートが同じ



だったらどう思いますか？

浅川 そんなことは起こりえない。

田辺 同じだったら、どうします？

浅川 ……。

田辺 廃車処分になった車が、公道を走っていたら、それは目撃者の彼女が言う通り、ゴーストカーとしか言いようがありません。

浅川 ああ、もう頭がクラクラしてくる。幽霊が、人をはねてると言ってるのよ、あなた。

田辺 仮にゴーストカーだったとして、なぜ人間を轢いていくのか。それがわかれば事件の解決につながるのではないか、とも考えてます。

浅川 でも誰もそのゴーストカーやらは、見えないじゃない。どうやって確認するのよ。

田辺 女子高生は見ているので、他にも見える人間がいるかもしれません。

浅川 ……。

田辺 7年前の事故車両のナンバープレートが、今回の車両と一致すれば……。

浅川　もう二人とも下がって。私には理解不能。

田辺　……わかりました。

田辺、磯部が去ろうとしたとき、

アナウンス　至急至急。東京本部より麻布3丁目西麻布ヒルズ  
前に置いてひき逃げ事件発生。逃走車は不明。被害  
者は、若年女性。各担当班は現場に急行してください。  
い。

浅川　またひき逃げ。

田辺　磯部、行くぞ。

磯部　はい！

田辺、磯部、浅川、駆け去る。

音無が右足を引きながら、現れる。

音無　どうして私が狙われなきゃいけないのよ。

音無、舞台中央まで来ると倒れる。

田辺、磯部がやってくる。

田辺 (音無に) おいつ、大丈夫か！

音無 あっ、刑事さん……。

田辺 君か！ しっかりしろ！

音無 私は大丈夫。見えたから交わせた……。

田辺 見えた？

音無 うん、正面から来た。ものすごい憎悪の念。あの車、怨念をぶつけて人を轢いてる。

田辺 怨念……。

磯部 ナンバー。ナンバー見えなかったか？

音無 走り去っていく車のナンバーは見ました。363…

…9191……。

磯部 ……ゴーストカー。

音無 あーあ、あの自転車、まだ新しかったのに……。

音無、意識を失う。

田辺 おいつ、しっかりしろ！

磯部

救急車、何やってんだ！

救急車のサイレン音が聞こえてくる。

暗転。

明転すると、舞台中央に浅川が立っている。

藤井、伊勢沼が入ってくる。

伊勢沼

課長、先日のひき逃げ事件の実況見分終わりま  
した。

浅川

見せて。

伊勢沼、資料を浅川に渡す。

藤井

被害者は音無彩香さん、18歳。彼女の証言から加  
害車両は、赤のランボルギーニ。ナンバープレート  
は363、9191です。加害車両は、被害者の正  
面から現れて、被害者がよけるも、自転車の後部が  
当たって、跳ね飛ばされています。幸い命に別状はあ

りませんが、右足を骨折しています。

伊勢沼 証言通り、鑑識でも調査しましたが、自転車は後部の大部分が破損。痕跡も被害者の証言通りですが、また加害車両の物証がありません。ブレーキ痕等もなし。これまでのひき逃げ事件と同様です。

浅川 被害者は加害車両のナンバーを見たのね？

藤井 証言ではそう話してますが、このナンバー7年前に事故を起こして、廃車になっています。

浅川 目撃者の証言は？

藤井 赤い車両は見えていないと言っています。衝突音がして振り返ったところ、高校生が道路に転がっていたと……。

伊勢沼 付近の防犯カメラをあたりましたが、ランボルギーニが事故時間前後に通った形跡はありません。

浅川 白い影とやらは？

伊勢沼 そちらはまだ確認していません。

浅川 確認してない？

伊勢沼 ええ、前の事故では報告しましたが、やはりとても現実的ではないと判断しました。

浅川 ……。

藤井 浅川課長はこの一連の事件、どうお考えですか？

浅川 赤いランボルギーニを見たのは、高校生だけ。しかもナンバーは廃車車両。追っても無駄ね。

藤井 はい。

浅川 ただ気になるのは、7年前に廃車になったランボルギーニのナンバーをなぜ彼女が見たのか、ということよ。たまたまだったなんてことある？

藤井 ……。

浅川 わからない。何がどうなっているのか。

藤井 刑事課の田辺と磯部が7年前の事故を調べてます。

浅川 浅川課長はなぜだかご存知ありませんか？

浅川 ……ここだけの話にしてもらえる？

藤井 なんですか？

浅川 田辺警部補は、加害車両はゴーストカーだと言っているのよ。

伊勢沼 ゴーストカー？ なんですかそれは？

浅川 文字通り、幽霊ってこと。

藤井 何をばかなことを。

浅川　　　　　そうでも言わないと、この一連の事件が成り立たないからでしょ。

伊勢沼　　　　そんな話、まともに聞けない。

浅川　　　　　私だってそうよ。

藤井　　　　　ついに田辺も頭が狂ったか。同期で優秀なやつだと思ってたが。

浅川　　　　　　7年前のランボルギーニが起こした事故、二人は捜査に関わってるの？

藤井　　　　　　なぜそんなことを？

浅川　　　　　　私は4年前に赴任してきて、その事故のことをまったく知らないからよ。どんな事故か聞かせてもらえる？

伊勢沼　　　　　実況見分調書を見ていただければ、すぐわかるかと。

浅川　　　　　　そうね、あとで見えておくわ。ナンバーが出てきた以上、一応は知っておきたいから。

伊勢沼　　　　　……。

藤井　　　　　　課長、ばかなことで動くな、と田辺に伝えておいてください。幽霊を追っかける刑事がどこにいる。

浅川 わかった。

藤井 それでは私たちはこれで。

浅川 お疲れさま。

藤井、伊勢沼、去る。

浅川 ゴーストカーかあ……。

浅川、深いため息をついて去る。

末武が入ってくる。そのあとから田辺が入ってくる。

田辺 お呼びでしょうか、末武管理官。

末武 用があるから呼んだんです。

田辺 何でしょうか？

末武 例の連続ひき逃げ事件、進展はどうですか？

田辺 難攻してます。証拠品もなく、目撃情報はありますが、肝心の加害車両を見たのは一名のみです。

末武 車両が割れてるなら、逮捕はすぐじゃないですか。



田辺　それが、いろいろ事情がありまして……。

末武　事情？

田辺　ナンバーまで割れてるんですが、その車両、7年前に廃車になっていきます。

末武　廃車になった車が公道を走ってるわけないでしょう。

田辺　そうです。

末武　いいですか、刑事課に捜査に加わるように命じたのは私ですが、それは今回のひき逃げ事件が、今までにない奇怪な事件だからです。7年前の事故を調べろとは言っていない。

田辺　はい。

末武　いますぐ、意味のない捜査はやめなさい。

田辺　意味がないと言いますと？

末武　そんな過去の事故を調べて、今回のひき逃げ事件が解決すると思ってるんですか？

田辺　可能性はあります。

末武　なぜです？

田辺　……。

末武 理由は？

田辺 申し上げられません。

末武 言えない？ 私を誰だと思ってるんですか。

田辺 ……。

末武 私に説明できない捜査をやっているなら、それは職務怠慢です。捜査から外れてもらう。

田辺 ちょっと待ってください、管理官。もう少しで何かつかめそうな気がするんです。

末武 それはひき逃げ犯の逮捕につながるんですか？

田辺 ……。

末武 警察官なら、犯人を逮捕してください。もう話すことはありません。下がってどうぞ。

田辺 わかりました。失礼します。

田辺、一礼して去る。

末武 余計なことをするな！

末武、去る。

美原が車椅子で現れる。

あとから入ってくる田辺。

美原　　なんででしょうか？

田辺　　あなたが先日言われた通り、7年前の事故を再度調査しました。事故はあなたの証言とはまったく違う内容で記録されています。

美原　　そうでしょうかね。

田辺　　なぜそのような実況見分になっているのか、何か思い当たることはありませんか？

美原　　黒いワンボックスカーの運転手を調べてもらえませんか？

田辺　　運転手？

美原　　私には、その運転手を守るために、捜査が進んでいくように感じたんです。

田辺　　理由はわかりますか？

美原　　いえ、わかりません。

田辺　　あなたが先日、言われたことが真実であった場合、ワンボックスカーは、後方からランボルギーニに衝

突っ込んで、信号無視も行っている。その上、運転手まで死亡していますから、加害者はワンボックスカー側になって危険運転致死傷罪が成立します。

美原 ……今は、私の彼が、罪を犯したことになっているんですよね？

田辺 はい。

美原 もし、彼が生きていたら、こんな理不尽に感じることはないと思います。覚えのない罪をかぶせられたわけですから。

田辺 ……。

美原 あの事故で彼は亡くなり、私の人生はがらっと180度変わりました。当たり前前に出来たことが、出来なくなる苦しみ、あなたにわかりますか？

田辺 ……。

美原 私、彼のお墓にまだ行けていないんです。証言をしたのに認められず、何度も捜査をやり直してもらえないように頼みましたが、麻布南署は相手にしてくれなかった。こんな無念な状態で、彼に会うことはできません。きないんです。

田辺　ワンボックスカーを運転していた人間は、確認して  
みます。納得のいく結果が出るかはわかりませ  
んが。

美原　あの、変ことを聞きますけど、あなたは私たちの味  
方ですか？

田辺　味方かどうかはわかりませんが、今までの警察官と  
は違うと思っただいて大丈夫です。

美原　私の証言が正しいことを、何とかして証明してくだ  
さい。それが私の願いです。

田辺　わかりました。

美原、去る。

磯部がやってくる。

磯部　田辺先輩！　どこ行ってたんですか？

田辺　何かヒントは得られないかと思って、出かけてた。

磯部　俺も連れてってくださいよ。

田辺　上から、この一連の事件の捜査から外れるように言  
われた。二人で動いたら目立つからな。

磯部 そういうことですか。

田辺 何か進展はあったか？

磯部 ありましたよー、警部補。

田辺 何だ？

磯部 7年前の事故で、ランボルギーニのドライブレコーダー、破損でデータがないことになってるじゃないですか。

田辺 うん。

磯部 それで、そのドライブレコーダー、物証として残ってるはずだと思って、探したんですよ。そしたらありました。

田辺 データが取れたのか！

磯部 いえ、SDカードが抜かれてて、データを取るのは無理でした。でも、付いてたドライブレコーダー、見たんですけど、多少傷は入っていますが、破損には至っていません。

田辺 破損なしか。

磯部 SDカード、まだ生きてるんじゃないですか。

田辺 もし、SDカードが無傷のまま、調査資料に破損

としてあるということは……。

磯部 警察内部の隠ぺい？

田辺 どうして、そんな必要があった？

磯部 おれに聞かれてもわかりませんよ。

田辺 7年前の事故と同じナンバーのランボルギーニがゴーストカーだ。何か関わりがあるはずだ。

磯部 そうですねえ。

田辺 磯部、おれは末武管理官からの命令で、この事故の捜査から外されてる。一個、頼みがある。

磯部 何ですか？

田辺 7年前の事故で被害車両になっている黒いワンボックスカーの運転手、徹底的に調べてほしい。

磯部 被害車両の運転手……。

田辺 何かつかめるかもしれない。

磯部 わかりました。調査だったら、任せてくださいよ。

磯部、去る。

藤井がやってくる。

藤井 今回の連続ひき逃げ事件の捜査から外されたらしいな。

田辺 藤井、ちょうどいいところに来た。

藤井 何だ？

田辺 7年前のランボルギーニが起こした事故、お前捜査に加わってるだろ。

藤井 加わってたら、何かあるのか？

田辺 ランボルギーニに同乗していた女性に聞いたんだけどな、彼女の証言と、実況見分調書の内容にだいぶ違いがある。どうしてだ？

藤井 同乗者の証言と、現場の状況があまりにもかげ離れてたからだ。だから証言は重要視されなかった。

田辺 嘘の証言をした。そういう扱いになってるのか？

藤井 事故が起きたとき、彼女は意識不明の重体だった。突如起きた事故で同乗者も混乱してたんだろ。

田辺 ランボルギーニには、ドライブレコーダーが付いていた。調書では、破損でデータなしになってるが、磯部が調べたら、ほぼ無傷で破損の形跡はないということだった。記録情報のSDカード、本当に破損し



てたのか？

藤井

田辺、あの事件の捜査はおれが陣頭指揮を取ったわけじゃない。疑問があるかもしれないが、おれは何も知らない。

田辺

……。

藤井

浅川課長に聞いたぞ。ゴーストカーって何だ？

田辺

7年前に事故を起こしたランボルギーニのナンバーと一連のひき逃げ車両のナンバープレートの番号が一致したんだよ。廃車処分になった車が走ってるんだぞ。ゴーストカー以外に何と言えはいんだ。

藤井

お前、少し、休め。推測がおかしいぞ。ゴーストカーの仕業です、なんて言っつて、誰が信じるんだ。

田辺

……。

藤井

末武管理官に、一連のひき逃げ事件の捜査から外れると言われたんだろ。それ以上、探るのはやめろ。

同期のお前だから特別に忠告しておく。

藤井、去る。

音無、松葉杖をついてやってくる。

田辺 すまない、療養中のところ。

音無 別にいいですよ。病院暇なんで。

田辺 ちょっと聞きたいことがあって来た。

音無 なんですか？

田辺 被害者の件についてなんだけど。

音無 はい。

田辺 一件目の事故にあったのは、パート従業員の女性。

二件目の被害者は、工場勤務の男性。そして3件目の被害者は君だ。

音無 はい。

田辺 3人について、何か関連性がないか調べたんだが、一つ聞きたいことがある。君、家族に警察関係者はいないか？

音無 います。

田辺 いるのか。

音無 はい、母が警務課で働いています。

田辺 やっぱり警察か。他の二人の被害者にも、家族に警察官がいる。

音無 あの、警察、何か恨まれてます？

田辺 ……。

音無 あの車、憎悪の念を持って走ってるんです。何かゴーストカーになった理由があるはずですよ。

田辺 理由……。

音無 幽霊って、怨念にもとづく復讐や執着のために現れることがあります。

田辺 復讐……。

音無 あの車の運転手、何か理不尽な形で亡くなっていませんか？

田辺 まだ調査中だが、その可能性はゼロじゃない。

音無 そしたら、それを解決しないとどうにもならないですね。

田辺 幽霊っていうのはそんなものなのか。

音無 まあ、一般的には。

田辺 幽霊なんて相手にしたことがない。

音無 それで私に聞きに来たんですね。

田辺 そうだ。

音無 ゴーストカーには何か強い恨みがあるはずですよ。それを解消できれば消えるかもしれません。

田辺　じゃあ、徹底的に調べるしかないな。

音無　そうですね。

田辺　やるだけやってみる。

音無　ファイトですよ、刑事さん。

田辺　わかった。

音無、去る。

磯部が入ってくる。

磯部　田辺先輩、どこ行ってたんですか？

田辺　音無さんのところに行ってた。

磯部　また女子高生ですか。

田辺　おいつ、変な言い方するな。

磯部　すみません。

田辺　磯部、つながってきたぞ。あの高校生、お母さんが警察官だ。

磯部　やっぱりそうでしたか。

田辺　あの幽霊車両、何か警察に恨みがある。

磯部　こっちも大変なことがわかりました。7年前の事故

でワンボックスカーを運転してた江島光汰を調べたんですが、江島光汰は、あの大物政治家の江島武史の息子で、事故当時、江島武史は内閣官房長官でした。

田辺 政治的圧力が加わったということなのか？

磯部 内閣官房長官の息子が危険運転致死傷罪で立件されるのはまずいでしょう。

田辺 そういうことか。そう考えると、美原理恵子の証言が採用されない理由も納得がいく。

磯部 実況見分調書まで、事実と違うなら、組織ぐるみの隠ぺいですよ、これ。

田辺 (険しい表情で) ……。

磯部 これ、触れたらかなりまずいです。

田辺 ……。

磯部 どうします？

アナウンス 至急至急。東京本部から麻布4丁目、天元前ホテル付近において、ひき逃げ事件発生。被害者は若年男性の模様。逃走車は不明。各班は対応してください。

磯部 先輩！

田辺 ゴーストカーを止めなきゃ、ずっとこのまま被害が続く。憎しみの元を断ち切らないと……。

磯部 何か、美原理恵子の証言が、正しいと証明できるものがあれば……。

田辺 ドライブレコーダーのSDカード、欲しかったな。

磯部 破損しててもそのSDカード、証拠物品にないのはおかしいですよね。

田辺 そうだな。

磯部 誰かが引き抜いてる。しかもそんなことができるのは警察官。

田辺 証拠物品紛失であげてみるか。

磯部 ん？ どういうことですか？

田辺 そしたら、おれたちの手でも探せるだろ。

磯部 残ってますかねえ。

田辺 そのほかにおれたちが出来ることがあるか？

磯部 ……。

田辺 無駄はいやか？

磯部 その無駄を積み重ねると教えたのは先輩です。

田辺、磯部、去る

浅川と藤井が入ってくる。

浅川 あの二人、何考えてるの！

藤井 破損してるSDカード探すなんて、どうかしてる。

浅川 証拠物品紛失。警視庁の本部長まで報告あがちゃつたじゃないの！

伊勢沼がやってくる。

伊勢沼 なんですか、この騒ぎは？

藤井 証拠物品紛失で、田辺が警視庁に報告をあげた。

伊勢沼 えっ、何を紛失したんですか？

藤井 7年前の事故のドライブレコーダーのSDカード。

伊勢沼 ……破損でしょ。

藤井 その破損したSDカードをみつけたいんだとよ。

伊勢沼 ……。

浅川 どうしてそんなもの探さなきゃいけないの！

藤井 私は最近、田辺が何を考えてるのか、よくわかりま

せん。

浅川　ほんとよ。ひき逃げ事件は、ゴーストカーの仕業だとか言うし、7年前の事故のSDカードを探しはじめるし。

伊勢沼　課長、先日発生した若年男性のひき逃げ事件実況見分調書、出来上がりました。

伊勢沼、浅川に書類を差し出す。

浅川、書類を見る。

浅川　被害者死亡。加害車両の物証なし。逃走車両不明。これで4回目のひき逃げ事故。麻布南署だけじゃ対処できない。

浅川、去る。

藤井　伊勢沼、SDカード処分してあるよな？

伊勢沼　あれだけは引っ張りぬくしかなかったから、おれが抜いて処分してある。



藤井  
それなら安心だ。どこを探したってみつからない。  
7年前の事故を証明するものはない。

藤井、伊勢沼、去る。

田辺と磯部が入ってくる。

田辺  
磯部、4人目の被害者調べたけどな、やっぱり家族  
が警察関係者だった。

磯部  
警察が狙われてるのは、ほぼ確定ですね。  
田辺  
そうだな。

磯部  
保管庫にあるSDカード、全部調べてますけど、7  
年前の事故のものは紛れ込んでませんね。

田辺  
やっぱり処分してるよな。隠ぺいなら残す理由がな  
い。無駄足に付き合わせてすまない。

磯部  
まあ、別にそれはいいんですけど、たぶんパンドラ  
の箱ですよ、これ。

田辺  
パンドラの箱？

磯部  
開けちゃいけない箱だってことです。

田辺  
こんな大がかりな隠ぺい、麻布南署だけでできるわ

けがない。そこで警視庁の7年前の人事記録見たんだけどな、交通部交通捜査課に、末武管理官の名前があった。

磯部 末武管理官？

田辺 末武管理官は7年前の事故は調べるな、というスタンスを取ってる。

磯部 何か関わりがあるんですかねえ。

田辺 わからないけどな、ちよつと気になった。

磯部 何か証拠があればなあ……。

田辺 証拠……証拠……あるじゃないか。

磯部 えっ？

田辺 そうだ、証拠がある。

磯部 何ですか。

田辺 美原理恵子の証言どおりなら、横からじゃなくて、後ろから追突されてるから、破損部品と資料が合わないだろ。

磯部 でも、こっちは交通事故の調査じゃ素人に近いですよ。どうやってもう一回、7年前の事故の再捜査をするんですか？

田辺 交通課の浅川課長は、赴任が4年前で、7年前の事故に関わってない。課長までたたき上げで上がって来たプロだ。わかるだろ？

磯部 でも、そんな捜査に協力してくれますかねえ。ゴーストカーなんて絶対に信用しないとしますよ。

田辺 おれに考えがある。

浅川が入ってくる。

浅川 証拠物品紛失、よくもやってくれたわね、あなたたちのおかげで交通課が騒がしいことになってるじゃない。

田辺 浅川課長、いいタイミングで来てくれました。

浅川 何？

田辺 7年前のランボルギーニの事故、再捜査してもらえませんか？

浅川 ゴーストカーのこと？ 私はそんなもの信じないから。

田辺 信じなくていいんです。

浅川 信じなくていい？

田辺 7年前のランボルギーニの事故、警察内部の隠ぺいの可能性が出てきました。

浅川 隠ぺい？ 何を言い出すの、あなたは？

田辺 ランボルギーニに同乗していた美原理恵子の証言と交通課が調べた事故の内容がまったく食い違ってます。それと被害車両だったとされる黒いワンボックスカーの運転手は、江島光汰という男性ですが、調べたところ、当時の内閣官房長官、江島武史議員の息子でした。

浅川 内閣官房長官の息子？

田辺 残っている証拠物品は少ないですが、捜査資料と破損部品が合うかどうか調べてほしいんです。

浅川 ……。

田辺 ゴーストカーを調べるのではなく、隠ぺいが実際にあったかどうかを調べていただきたいんです。

浅川 また面倒なことを言い出すわね、あなたは。

田辺 課長は現場のたたき上げと聞いてます。私たちには無理ですが、浅川課長なら、おかしなところがあれ

ば見抜けるはずです。

浅川  
もし、隠へいだったらとんでもないことになるわ  
よ。

田辺  
浅川課長、私は警察官です。課長は？

浅川  
……。

田辺  
お願いします。課長が調べてください。

浅川  
わかった、とは言わない。

浅川、去る。

磯部  
課長、調べますかね？

田辺  
関わりたくないだろうなあ……もし、隠へいなら大  
変なことになるからな。でもかけてみるしかない。

磯部  
そうですね。

田辺、磯部、去る。

末武と藤井が入ってくる。

末武  
田辺警部補は何を考えてるんですか？

藤井 さあ、私にもよくわかりません。

末武 証拠物品紛失なんて警視庁にあげたりして。大丈夫なんですよね？

藤井 大丈夫です。SDカードは伊勢沼巡査部長が、引き抜いて、処分しているので、出てくることはありません。

末武 7年前の事故にどうしてそこまで執着してるんですか？

藤井 一連のひき逃げ事件を起こした車両のナンバーと7年前の事故車両のナンバーが一致したからです。

末武 そんなことあるわけないでしょう。あの車は廃車処分になってるわけですから。

藤井 そうです。

末武 よりにもよって、あの事故を調査するなんて気分がよくありませんね。

藤井 私も田辺にやめるように言ったんですが……。

末武 当時、捜査に加わっていた交通課の人間で、危うい人物はいますか？

藤井 いえ、実況見分調書を書き換えたのは私で、伊勢沼

以外の者は適正に捜査が行われたものと信じていますので漏れることはありません。

末武

田辺警部補と磯部巡査部長は近いうちに転勤の辞令を出す方向で動いてる。この調査に関われないようにする。

藤井

はい。

末武

浅川課長は何と言ってますか？

藤井

ばかばかしいと言って、田辺を相手にしていません。

末武

それなら、よし。何かおかしな動きがあれば、私に報告してください。邪魔者は、徹底的に排除する。

藤井

わかりました。

末武、藤井、去る。

浅川が入ってくる。手に書類を持っている。

そのあとから伊勢沼が来る。

伊勢沼

お呼びでしょうか、課長。

浅川

ええ、ちよつと話があるのよ。

伊勢沼　　なんででしょうか？

浅川　　7年前のランボルギーニの事故、私が調べたの。

伊勢沼　　7年前ですか……。

浅川　　藤井課長補佐が実況見分調書作成してるわね。

伊勢沼　　はい。

浅川　　この事故現場の写真と数少ない証拠、供述調書、すべて見たんだけど、私が見た限り資料と破損部品に整合性がない部分がある。

伊勢沼　　そのようなことはないと思うんですが。

浅川　　伊勢沼さん、あなた鑑識でこの事故に入ったわよね？

伊勢沼　　入りましたが、それが何か……。

浅川　　証拠物品紛失であがってるSDカード、誰が取り扱ったの。

伊勢沼　　だいぶ前のことで、私は覚えていません。

浅川　　本当に？

伊勢沼　　はい。

浅川　　この事故の調査、再捜査にする。

伊勢沼　　再捜査？



浅川 不可解な点が多すぎる。

伊勢沼 ……。

浅川 供述調書に加害者の供述がないのはなぜ？

伊勢沼 死亡したからかと思いますが。

浅川 同乗していた女性がいたでしょ。彼女の供述は？

伊勢沼 長期の入院になったため、実況見分に間に合わなかったからだと思います。

浅川 じゃあ、聞き直さないと。

伊勢沼 ……。

浅川 もういいわ、ありがとう。

浅川、去る。

藤井が入ってくる。

藤井 どうした、伊勢沼。浅川課長の話ってなんだったんだ？

伊勢沼 藤井、まずいことになった。7年前の事故、浅川課長が調べはじめた。再捜査にするとも言ってる。

藤井 再捜査？

伊勢沼 たぶん田辺警部補だ。何か入れ知恵をした。

藤井 まあ。いいだろ。どうあがいたって、決定的な証拠は出てこない。

伊勢沼 ……。

藤井 伊勢沼、SDカード、まさか残ってたりしないよな？

伊勢沼 それはない。

伊勢沼、出て行く。

藤井 再捜査か。田辺のやつ……。

藤井、去る。

末武が入ってくる。そのあとから浅川が来る。

末武 どういうことか説明してください。

浅川 何のことでしょうか？

末武 とぼけないでもらいたい。7年前の事故を再捜査す

るように命じたらしいですね。

浅川 はい。私が見たところ、不可解な点が多数ありました。そのため、再捜査を決断しました。

末武 あの事故は判決まで出ているじゃないですか。そんな事故を再捜査してどうするんですか。

浅川 ドライブレコーダーのSDカードがありません。記録上は破損ということになってますが、その破損したとされるものがなくなっています。

末武 証拠物品紛失の件のあれですか。

浅川 そうです。

末武 いま、麻布南署が全力をあげて捜査しなくちゃいけない事件はなんですか？

浅川 連続ひき逃げ事件です。

末武 だったら、7年前の事故の再捜査なんてやってる場合じゃないでしょう。

浅川 連続ひき逃げ事件を探っている中で、出てきたのが7年前の事故です。高校生の証言から、ナンバープレートも同じランボルギーニ。念のため、調べようと思います。

末武 浅川課長、私は、その事故の再捜査はやめろと言っているんです。あなたは私の言うことが聞けないんですか？

浅川 不審な事故を調べるのに、何の問題があるんでしょうか？

末武 ……。

浅川 何か再捜査にすると不都合でもあるんでしょうか？

末武 不都合？ そんなものはない。

浅川 でしたら、再捜査を継続します。

末武 わかった。下がれ。

浅川 失礼します。

浅川、去る。

末武 はらわたが煮えくりかえる！

末武、去る。

田辺、工具箱を持って現れる。

工具箱を置いて、しばらくみつめる田辺。

磯部が入ってくる。

磯部 先輩、その工具箱なんです？

田辺 地下の車両整備庫でみつけた。

磯部 まだ紛失調査やってたんですか。

田辺 ああ。

磯部 しぶといなあ、田辺先輩は。

田辺 この工具箱なんだが、鍵がかかって開かない。

磯部 施錠付きの工具箱なんですか？

田辺 整備のあんちゃんに聞いてみたが、昔からある工具箱で開けたことはないということだった。

磯部 何ですかね？

田辺 中を見たいんだけどな。壊すわけにもいかない。

磯部 器物破損はやめてくださいよ、先輩。

田辺 わかってる。

磯部 どうするんですか？

田辺 開けるしかないだろ。

田辺、工具箱を持って去る。

磯部

どうやって開けるんですか！

磯部、田辺を追って去る。

伊勢沼が駆け込んでくる。

伊勢沼

ない！ ない！

藤井が入ってくる。

藤井

どうした、伊勢沼。

伊勢沼

工具箱がない。

藤井

工具箱？

伊勢沼

車両整備庫に置いてあったのがなくなってる。

藤井

何か問題でもあるのか？

伊勢沼

……。

藤井

伊勢沼、まさかお前……。

伊勢沼

すまん、藤井。あの証拠だけは警察官としてどうしても処分できなかった。

藤井

ばかやろう！ 処分したって言ってたじゃないか！

伊勢沼 田辺警部補だ。紛失調査あげてたから。

藤井 取り返しに行くぞ！

伊勢沼 取り返すってどうやって？

藤井 どんな手段を使ってもだ。

伊勢沼 工具箱、施錠してある。

藤井 いや、あいつのことだ。何としてでも開ける。

伊勢沼 開けられる前に取り戻さないよ。

田辺が入ってくる。

田辺 こんな時間に刑事課に何の用だ？

藤井 なんだ、お前、夜勤だったのか。

田辺 残業だよ。

藤井 そうか。

田辺 何かあったか？

藤井 工具箱、知らないか？

田辺 工具箱、ああ、あれか。

藤井 施錠付きの工具箱あったら。あれ交通課のものだ返してもらいたい。

田辺  
磯部。

磯部、工具箱を持って入ってくる。

伊勢沼  
ああ、それぞれ。

磯部  
やっぱり交通課が管理してたんですね。はい、返しますよ。

磯部、伊勢沼に工具箱を渡す。

藤井  
すまん、急に椅子が壊れてな。ガタついてるのが多くてな。

伊勢沼  
あれっ、鍵が開いてる……。

田辺  
藤井、持ち帰りがかったのは、工具箱じゃないんじゃないか？

藤井  
何のことだ？

田辺  
お前が欲しかったのはこれじゃないか？

田辺、胸ポケットから小型のビニールケース



に入ったSDカードを取り出す。

磯部 残念。もう少し早かったら間に合ったのに。

田辺 工具箱はすぐに鍵屋に持って行って開けてもらった。ただ、誰が取り戻しにくるか待ってたんだよ。

藤井 田辺、貴様！

田辺 もうSDカードは確認した。実況見分調書とまったく異なる映像だ。どうして隠ぺいした？

藤井 そんなことはおれは知らん。

磯部 知らない、で通せるわけないでしょう。7年前の事故の実況見分調書、作成してるのは藤井さんじゃないですか。SDカードを見てないとは言わせませんよ。

伊勢沼 田辺さん、頼む。見逃してくれ。それは俺たちがやりたくてやったことじゃないんだよ！

藤井 伊勢沼、お前、黙ってる！

田辺 こんな大がかりな隠ぺい、お前たちだけじゃできないだろ。事故に関わったのは、元内閣官房長官の息子だ。そこまではわかってる。

浅川が入ってくる。

浅川 藤井警部補、誰が指示したのか答えなさい！

藤井 浅川課長……。

伊勢沼 管理官です。末武管理官。

浅川 何のために！

伊勢沼 内閣官房長官の地位を保つために、その息子を加害者にしないように指示されました。

浅川 それに二人は従ったの？

伊勢沼 末武管理官は当時、警視庁の交通部所属でキャリア組、言われたことを聞くしかなかったんです。当時の署長も副署長も指示通りに動くように私たちに命じました。

藤井 ……。

田辺 藤井、申し開きしたいことはあるか。

藤井 伊勢沼が言った通りだ。上の指示で、それに従った。

浅川 あなた、実況見分証書の改ざんは犯罪よ。それわかっているの？

藤井 わかってますが、当時はそうするしかなかったんです。

田辺 実況見分調書の改ざん認めるんだな？

藤井 お前たちに何がわかるんだ。こっちは飲みたくもない毒薬を飲まされて、7年間苦しんできたんだぞ。

おれは警察官だ。そのおれが、こんなことを背負わされた苦しみがお前らにわかるか。

田辺 ……。

藤井 毎日、毎日、この事故のことを思い出さない日はなかった。ずっと抱えられ続けてきた。

田辺 でも、これは犯罪なんだよ。何やってるんだ！

藤井、駆け出していく。

田辺 藤井！

田辺、磯部、浅川、伊勢沼、藤井を追って去る。

藤井が再び舞台前まで駆け出してくる。

藤井、拳銃を取り出して、こめかみに当てる。

田辺、磯部、浅川、伊勢沼が駆け走ってくる。

藤井 近づくな！

浅川 藤井課長補佐、やめなさい！

藤井 おれはずっと思ってたことがある。この件が明るみになったら、死のうと心に決めてた。おれの警官としての最後のプライドだ。

田辺 藤井、拳銃を下ろせ！

藤井 どうしてこんなことになったんだろうなあ。正義感をもって、警察官になったつもりだったのに。

田辺 お前は運が悪かったんだよ。間違いは誰でも起こす。

藤井 田辺、お前だったら断っただろうなあ。お前は強いからな。でもそんな強い人間ばかりじゃないんだ。

田辺 上層部から圧力かけられたら、俺だって、どう動くかわからない。

藤井 田辺、俺は刑事課に行きたかったんだよ。そのためには、断れない案件だった。上層部に嫌われたくなかった。

田辺 藤井……。

藤井 おれが小さいころからあこがれてたのは刑事だった。交通課の仕事も立派な警察官の仕事だと思ってる。でも、おれが人生をかけてやりたい仕事は刑事課の仕事だった。伊勢沼を強引にこの件に引っ張り込んだのはおれだ。

田辺 ……。

藤井 もうすべて終わった。

浅川 拳銃を下ろしなさい、藤井課長補佐！

田辺 藤井、ここで死んでも誇りある死に方にはならな  
いぞ。お前は罪もつぐなわず、人としての責任から  
も逃れるのか？

藤井 ……。

田辺 お前が警察官なら、罪を償って、被害者に詫びること  
が正義だと俺は思う。

藤井 ……。

田辺 藤井、拳銃を下ろしてくれ。死んでお前の愛した正義から逃げないでくれ。

藤井 逃げる？

田辺 そうだ、このまま死んだら、お前は最後の正義から逃げたことになる。

藤井 ……。

田辺 藤井、拳銃を下ろしてくれ。お前ならやり直せる。

藤井 もう疲れたんだよ、逝かせてくれ。

田辺 お前の最後の正義を貫くんだ、藤井。

藤井 ……すまん、田辺、俺が考える正義はこっちだ。

田辺 やめろ、藤井！

暗転。

バンツと言う拳銃の音。

明転。

森の中、鳥のさえずりが聞こえる。

舞台中央に車椅子に座った美原理恵子がい

る。

しばらくして、田辺が来る。

田辺　こちらにいと聞いて来ました。

美原　ここ、落ち着くんですよね。

田辺　そうですね、鳥のさえずりが聞こえて、空気も澄んでいます。

美原　再捜査になった事故の結果ですか？

田辺　はい、ドライブレコーダーの記録から、あなたが証言した通り、ランボルギーニは青信号で左折。その瞬間、後方から来たワンボックスカーに衝突されます。相手側は時速100キロ以上で大幅なスピード違反。それと赤信号無視です。

美原　私の彼は無罪になりますか？

田辺　無罪です。適切な運転で過失はありません。

美原　真実が明かされて、ほっとしています。刑事さんが頑張ってくれたんですか？

田辺　私の力だけではありません。

美原　私、彼のお墓に行こうと思うんです。やっと顔向け

ができる。そんな気がしています。

田辺 まだ、行けてないんでしたね。

美原 はい。

田辺 警察内部の隠ぺいがあったことは深くお詫びいたします。

美原 大きなニュースになっていますね。

田辺 はい。交通課の責任者が告発しました。

美原 その責任者の方にも感謝をお伝えしてください。

田辺 わかりました。

美原 いい香りがするでしょう。何の花かわかりますか？

田辺 いえ、私はあまり花はくわしくなくて。

美原 イカリソウという花です。花言葉は旅立ち。

田辺 旅立ち……。

美原 彼は無念だったでしょうが、この事故が解決したことで心安らかに旅立ってほしいと思っています。

田辺 ……。

美原 ここ、みかんもたくさんできるんです。たくさんありますから刑事さん、食べて行ってください。

田辺 ……。



美原 どうかしましたか？

田辺 いえ、ごちそうになります。

美原 それではこちらへ。

美原、田辺、去る。

浅川と磯部が入ってくる。

磯部 あれからもう3カ月。連続していたひき逃げ事件も不思議となくなりましたね。

浅川 ゴーストカーの話？ 私はそれは信じてないから。

磯部 そうでしたね。

浅川 本当に深い犠牲をはらうことになった。

磯部 そうですね、とてもハッピーエンドじゃありませんね。

浅川 間違った判断をしたとは思っていないけれど、決して気持ちのいいものじゃない。

磯部 それは先輩も同じだと思いますよ。

浅川 次の人事でどこに飛ばされるやら……。

磯部 飛ばされますかね？

浅川 正義を良く思う人間ばかりではないということよ。

磯部 後悔してます？

浅川 後悔？ してないわ。私は私が思う警察官としての誇りをまっとうしただけ。そういう選択しかできないのよ、私は。

浅川、磯部、去る。

田辺が入ってくる。

向かい側からやってくる音無。

音無 刑事さん。

田辺 すまないな。呼び出して。足はどうだ？

音無 もうすっかり良くなりました。

田辺 そうか、それなら良かった。

音無 テレビ見ましたよ。あれ、刑事さんがやったの？

田辺 うん、ゴーストカーが止められるかもしれないなかったから。

音無 ゴーストカー、現れなくなりましたね。

田辺 ああ、君が言った通りの結果になった。

音無 真実が明らかになって、怨念が消えたんだと思います。  
す。

田辺 でも、俺はゴーストカーを許そうとは思わない。3  
人の命が犠牲になった。それに君は負傷も。どんな  
理由があろうとも、犯罪だ。

音無 幽霊に犯罪？

田辺 まあ、逮捕はできないか。

音無 でも刑事さん、よく私の話を信じましたね。

田辺 最初はとても信じられるような話じゃなかった。

音無 普通信じませんよ。刑事さんはたぶん、ゴーストカ  
ーのエンジン音が聞こえたから、私の話を信じたん  
ですよ。

田辺 ああ、そうかもしれない。

音無 刑事さん、霊感強いでしょ？

田辺 強いかどうかはわからないが、誰もいないのに人の  
気配を感じたりすることはあった。

音無 うん。

ランボルギーニのエンジン音が聞こえてく

る。加速するランボルギーニのエンジン音が  
消え去っていく。

田辺 ああのゴーストカーのエンジン音は、思い出すだけで  
頭が痛くなる。

音無 もうきつと聞こえることはないですよ。

田辺 そうだな、もう二度と聞きたくない。

音無 私もいやです。

田辺 ……ああ、そうだ。

田辺、スーツのポケットからチケット袋を取  
り出して渡す。

田辺 今回の件のお礼だ。

音無 (チケット袋を開けて) わあ、デイズニーランドの  
チケット。

田辺 二枚入ってる。友達とでも行ってくれ。

音無 刑事さんでもいいですよ。

田辺 大人をからかうな。

音無 (笑って) すいません。

田辺 今回は世話になった。本当にありがとう。

音無 ゴーストカーが消えて良かったです。

田辺 じゃあ、これで。また、は無しだ。

音無 わかってます。

音無、くるっと回って去る。

磯部が入ってくる。

磯部 先輩、どこ行ってたんですか？

田辺 ん？ ちょっとした用事だ。

磯部 浅川課長、人事異動が決まりました。

田辺 どこだ？

磯部 青梅東署です。

田辺 だいぶ遠方に飛ばされたな。

磯部 ええ。

田辺 でも浅川課長なら、必ず中央部に戻ってくる。なぜならあの人が出たことは警察官として正しいからだ。

磯部 おれもそう思います。

アナウンス 至急至急。東京本部より麻布3丁目、麻布グラン  
マンション905号室において殺人未遂事件発生。  
各班は急行してください。

田辺 行くぞ、磯部。

磯部 はい！

田辺、磯部、駆け去る。

〈幕〉